

銚田市男女共同参画推進事業 VOL.6 HOKOTA Woman Interview

誰もが活躍できる共生社会へ

市では、男女共同参画推進事業の一環として、誰もが自分らしく活躍できる社会の実現を目指し、地域で活躍する女性を「ロールモデル」として紹介しています。

「ロールモデル」とは、生き方や働き方の参考になり得る存在のことです。

今回は、銚田市銚田で生花店を経営されている色川佑美さんにお話を伺いました。

生花店をオープンしたきっかけは何ですか？

20歳で結婚し出産後、子育ての合間に趣味でフラワーアレンジメントを始めました。大勢の中で働くのが苦手だったため、自分で商売をしたいと考え、プリザーブドフラワーやドライフラワーのレッスンを始めました。これが生花店を開くきっかけです。

その後、トレーラーハウスやテナントでの販売を経験する中で、「もう一度ゼロから、自分らしいお店を作ろう」と決意し、現在は銚田の自宅敷地内に新店舗をオープンしました。

これまで直面した困難をどのように乗り越えましたか？

自営業の中で困難に直面することもありましたが、一人で抱え込まず、家族やお客様、周囲の支えを得ながら、続けてきました。

最近では、「大変」は「大きく変わるとき」だと捉えながら、困難も成長のチャンスだとポジティブに考えるようになりました。乗り越えた先にある楽しみを想像しながら、前向きに取り組んでいます。

仕事と家庭・プライベートのバランスをどのようにとっていますか？

子育てをしながら働いているため、完璧を目指すのではなく、優先順位を大切に楽しく過ごすことを心掛けています。時には無理をすることもありますが、自分で選んだ道として前向きに取り組んでいます。何より、家族の理解と支えがあってこそ、仕事を続けられていると感じています。

色川さんのとある1日のスケジュール

起床・自分時間

仕入れのために
市場へ

お店で
接客や商品の制作

息子を習い事へ送迎
夫&娘と外食で
リフレッシュ

お店に戻って
やり残した仕事と
明日の準備

自分時間・就寝



生花店「hanaEko」経営

色川佑美さん(35)

【職業】生花店経営

花束やアレンジメント、仏花の販売
ウェディング装花や店舗・イベントのディスプレイ
花壇の植え替え等

影響を受けた人物はいますか？

10代の頃に読んだ、田辺聖子著『言い寄る』『私的生活』『母をつぶしながら』の主人公・乃里子さんに憧れています。毒舌がありながらもチャーミングで、自分の暮らしと感覚を大事にしている女性なので、彼女のように生きていきたいと思っています。

今後挑戦してみたいことはありますか？

自然を舞台にしたレセプションパーティーの装花に携わった経験があり、また機会があれば、そういった芸術的な仕事に挑戦したいです。

また、お花をもっと身近に感じてもらえるように、小さな子どもから高齢者まで気軽に立ち寄れる生花店を目指していきます。地域に寄り添いながら、お花を通じて多くの方に笑顔を届けていきたいです。

新しいことに挑戦しようとしている方へ

「やりたいことを形にする」「まずはやってみる」という行動力は、私の強みです。しかし、それを続けていくことは一歩では簡単ではありません。

だからこそ、もし迷ったときは周りの人に話してみるから始めてみてください。誰かに話すことで、自分だけでは気づけなかった新しい道が見えてくることもあります。

人とのつながりを大切にしながら、自分らしい一歩を踏み出してもらえたら嬉しいです。